

2024年9月27日

横浜ゴム、「SUPER FORMULA 大運動会」のデモンストレーション走行に 再生可能原料比率約 60%のプロトタイプレーシングタイヤを供給

横浜ゴム（株）は「全日本スーパーフォーミュラ選手権（以下、スーパーフォーミュラ）」第6・7戦に合わせて開催されるファンイベント「SUPER FORMULA 大運動会」のデモンストレーション走行（以下、デモラン）に再生可能原料比率約 60%の「ADVAN（アドバン）」プロトタイプレーシングタイヤ[※]を供給します。レースおよび大運動会は 10 月 12 日、13 日に富士スピードウェイ（静岡県）で行われ、12 日に実施されるデモランのドライバーはスーパーフォーミュラを統括する（株）日本レースプロモーション（以下、JRP）の近藤真彦会長が務めます。

※プロトタイプレーシングタイヤはデモランのみ使用されます。

大運動会は来場者とともに盛り上がるイベント「AUTUMN FESTA」のコンテンツのひとつとして実施され、競技マシン向けエンジンを供給する TOYOTA（赤組）と Honda（白組）の対決という演出を通して「競うことの楽しさ」や「勝つことの喜び」を感じてもらうことを目的としています。近藤真彦会長が、開発車両である Red Tiger SF23（赤寅）のデモランを実施し、「SUPER FORMULA 大運動会」にエールを送り、大会を盛り上げます。また、JRP が推進するサステナブルなモータースポーツづくりを目的としたプロジェクト「SUPER FORMULA NEXT50（ゴー）」を知っていただく一環としてカーボンニュートラルへの取り組みを訴求し、「赤寅」には当社の「ADVAN」プロトタイプレーシングタイヤが装着されます。

横浜ゴムは、カーボンニュートラルの達成とモータースポーツの持続可能な発展を目指す活動の一環として「SUPER FORMULA NEXT50（ゴー）」に賛同し、2023 年からスーパーフォーミュラに再生可能原料比率約 33%のレーシングタイヤを供給するとともに、再生可能原料比率をさらに高めたタイヤの開発を継続しています。今回デモランに提供するプロトタイプレーシングタイヤは、現在供給しているレーシングタイヤ仕様に粉殻シリカ、植物由来オイル、サーキュラーカーボンブラック[※]などを新たに採用することで再生可能原料比率を約 60%まで向上させています。

※原料として用いるオイルを廃タイヤの熱分解により得られる熱分解油や植物油に置き換えて製造したカーボンブラック。

なお、横浜ゴムは生産拠点におけるカーボンニュートラル化にも取り組んでおり、モータースポーツ用タイヤを生産する三島工場のモータースポーツ用タイヤ生産ラインはすべて再生可能エネルギー電力を使用しています。

横浜ゴムは 2024 年度から 2026 年度までの中期経営計画「Yokohama Transformation 2026（YX2026）」（ヨコハマ・トランスフォーメーション・ニーゼロ・ロク）のタイヤ消費財戦略において高付加価値品比率の最大化を掲げ、グローバルフラッグシップタイヤブランド「ADVAN」、SUV・ピックアップトラック用タイヤブランド「GEOLANDAR（ジオランダー）」、「ウィンタータイヤ」、そして 18 インチ以上のタイヤの拡販に取り組んでいます。その中で、モータースポーツ活動を「ADVAN」「GEOLANDAR」のブランド価値向上の場と位置付け、トップカテゴリーからグラスルーツカテゴリーまでグローバルでの多岐にわたるモータースポーツ競技に参戦しています。



デモランで使用される Red Tiger SF23 と近藤会長



デモランに向けてテスト走行をする Red Tiger SF23 (9月26日実施)



再生可能原料比率約 60%のドライ用「ADVAN」プロトタイプレーシングタイヤ

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム（株）経営企画部 広報室 担当：池田
TEL：0463-63-0414 FAX：0463-63-0552